



おひざのうえで

(副園長の子育ておうえん通信)(2022年2月)



せんりひじり幼稚園
副園長 安達かえで

「表現発表会」

先日は、表現発表会にお越し頂きありがとうございました。

コロナ感染の不安がよぎる中での開催という決断をしましたが、園長の挨拶にもあったように、子どもの育ちを止めたくない、必要な経験をさせてあげたいという願いと、感染拡大を止めたいという思いが相反することで、非常に悩みました。

これまでと違い、オミクロン株の感染力は強く、少し咳が出る程度、少し熱があるけどすぐに下がったり、おなかの調子が悪い程度でも、検査をすると陽性だったとの報告が相次ぎました。マスクをしても手洗いしても、食事のパーティションをしても、そしてワクチンを打った大人ですら感染していきます。

保護者の方から、毎日様々な問い合わせが入ります。「お姉ちゃんは微熱ですが本人は元気なので登園してもいいですか?」「咳が出ていた程度なので、明日は登園してもいいですか。」「熱も下がって風邪だと思うので検査はしません。」など、連絡をいただいた方々には無理を言って検査をお願いすることが続いています。また、数人の陽性者が出て学級閉鎖をしたときも、「濃厚接触者かどうか、教えて下さい。」「陽性になった子はいつから発熱しているのですか?」「学級閉鎖中でも、お稽古に行っても大丈夫ですか?」などなど次々と問い合わせの電話が入り、保護者の皆様の不安が伝わってきます。私が同じ立場でも、同じように、不安になり詳しい情報がほしいだろうなと感じました。しかし、園としては、可能な範囲でできるだけ早く正確な情報をお伝えしたいと考える一方で、お子さんに感染の可能性がない場合にも全て伝えることで、逆に混乱されるのではないかと悩みました。

園内の感染を止めるには、休園するしかありません。でも休園が続けば、子どもがこの時期に園で経験できることができずに大切な育ちを止めてしまうこととなります。また、感染していない元気な子までずっとその間家にいなければならないこととなります。ましてやこの年度末の子どもたちは、自信とやる気に満ちた勢いのある珠玉の育ちが見られる時期です。縄跳びを飛ばせば、友達と刺激し合ってぐんぐん上手になる時期。コマの勝負で様々な感情を経験する時期。表現力も伸び、役になり切って演じることが出来る時期。クラス意識も強くなり、自分たちの劇を共に面白く仕上げたい気持ちがあふれています。

悩んだ末の発表会の開催でしたが、保護者の皆様のご理解ご協力によりできたことに心より感謝いたします。リスクがあることを承知の上で、子どものかけがえのない経験や育



ちを優先しましたが、子どもたちのかわいい表現や生き生きとした演技の根っこにある成長に胸が熱くなりました。

残念ながら当日体調が悪くお休みだった子たちもいましたが、練習の過程では間違いなく成長がありますし、きっと再演では休んだからこそ、元気でみんなと一緒にできる楽しさを感じてくれることと思います。ふじ組も延期にはなりましたが、直前の練習では「ねむりひめ」を助けるためにいばらの道を戦いながら進んでいく迫力たっぷりの演技が見られました。きっと休みの間子どもたちの心の中にイメージが温めてられて本番はさらに豊かな表現になっていることと思います。

この新型コロナ感染の苦悩がいつまで続くのか・・・「もういい！！」と叫びたい気持ちですが、北京オリンピックを見ていると、ここまでの道のりは決してまっすぐではなく様々な苦難を乗り越えてこの舞台に立っているのだろうなと思います。このコロナの苦境もいつか「あれがあったから今がある」と思える日が来ることを祈ります。また、子どもにとってマイナスで終わらないように、コロナ禍の中でも園生活を充実させて豊かな育ちにつなげていきたいと思います。

